令和３年度第４回　感染症発生動向調査部会

令和３年７月２１日
月番：大西秀典

１　前月の感染症発生動向について（2021 年第 22 週～25 週・6 月）

＜全数把握対象疾患＞

・ 一類感染症については、発生報告は無い。
・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は 23 例で、前年の同期累計報告数 178 例、本年の累計報告数が 134 例であり岐阜県下においては発生が減少傾向である。従来通り基本的には高齢者が多いが、若年層にも散見される。
・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が 4 例、全て 0157 の発生が報告されている。
・ 四類感染症については、レジオネラ症が 10 例報告されている。
・ 五類感染症(性感染症以外)については、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が 2 例、急性脳炎が 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病が 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症が 3 例、播種性クリプトコックス症が 1 例といずれも散発している程度であり大きな流行は確認されていない。侵襲性肺炎球菌感染症の 3 名はいずれもワクチン接種後の 1-4 歳台の小児例であった。今月は、百日咳の報告がみられなかった。
・ 指定感染症として、新型コロナウイルス感染症が今月の報告数は 647 例、本年累計 6767 例と岐阜県下においても流行が続いているが前月と比較して減少傾向にはある。

＜定点把握対象疾患＞

・ RS ウイルス感染症が 16 週頃から急増しており、6 月期も例年のピーク期よりも高いレベルでの発生が続いている。岐阜県内での発生数は全国平均よりも高い。
・ 咽頭結膜熱は 58 例、A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎は 108 例の発生があり、2020 年を除く例年の傾向に近いレベルとなりつつある。
・ 感染性胃腸炎も 436 例の発生があり、2020 年を除く例年の傾向に近いレベルの発生となっているが、前月比としては 81.1%で若干減少傾向である。
・ 昨年ほとんど流行のみられなかった手足口病は 13 例、ヘルパンギーナは 27 例と少ないながらも発生がみられつつある。
・ 突発性発疹は 50 例の発生があり、前月比 93.9%、前年同期比 64.6%で、若干少なめではあるがコンスタントに発生がみられている。
・ 伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎の発生はほぼゼロの状況が続いている。
・ その他目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

２　検討すべき課題

〈保健環境研究所から〉

・ 梅毒について
・ RS ウイルス感染症について
・ ヘルパンギーナについて

３　情報提供（月番委員専門分野から）

・　岐阜大学医学部附属病院ではフィルムアレイ呼吸器感染パネルにより発熱患者のスクリーニングを行っている。6 月期には小児発熱患者で RS ウイルス感染が急増し、ライノウイルス、アデノウイルスの検出例が散見されていたが、7 月期にはいりパラインフルエンザウイルス感染の患者も増えてきている。パラインフルエンザウイルス感染はクループ症候群の原因ともなるため、注意喚起をしたい。

４　その他（感染症対策推進課から）

・　東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う感染症サーベイランスの取組強化について
・　RS ウイルス感染症に関する注意喚起について（その３）
・　ポスターを用いた蚊媒介感染症並びにダニ媒介感染症の予防啓発及び対策の推進について
・　乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの供給について（更新情報）

---

＜検討結果＞